まほろば秦野通信

平成２７年５月４日

タイトル	**危険業務従事者叙勲受章市長報告**
Ｗｈｅｎ （いつ）	５月１２日　(火)　午前９時半から
Ｗｈｅｒｅ （どこで）	市役所本庁舎３階　市長応接室
Ｗｈｏ （だれが）	氏名　大津　馨（おおつ　かおる） 年齢　６７歳
Ｗｈａｔ （なにを）	受章　瑞宝単光章 元秦野市消防職員（消防司令長）として、第２４回危険業務従事者叙勲を受章されたことを市長に報告 (案内　小清水消防長)
Ｈｏｗ （どのように）	４月２９日　発令 ５月１１日　日比谷公会堂にて消防庁伝達式 同日天皇陛下拝謁
Ｗｈｙ （なぜ）	長年の消防功績　(別添功績調書等のとおり)　に対して 危険業務従事者叙勲受章
過去の実績	秦野市消防関係：危険業務従事者叙勲　１２名
問い合わせ	消防本部消防総務課庶務担当：門倉 電話０４６３（８１）５４５１

消　防　庁

功　　績　　調　　書

元　秦野市
おおつ　かおる
消防司令長　大津　馨
昭和２２年７月６日生（６７歳）

１　性　　行

資性は温厚なるも生粋の消防人として、消防行政に先進的に取り組む姿勢は不屈の精神と質実剛健な気風に富んでいる。また刻々と変化する社会情勢に対応すべく消防法規の研究はもちろんのこと、火災防御技術や部隊運用等にも日夜研究を重ね、豊富な知識と適切な判断力を持ち備えている。

平成１５年に西分署長、平成１６年には消防署警備第二課長、平成１８年には消防署警備第一課長を歴任し、消防署長を補佐するとともに部下の育成にあたっては職員間の協調性を高め、更に指揮系統の一貫性を期すため、毅然とした態度を持って接する様は高く評価されている。

２　事　　績

(1)　永年にわたり職務に尽くした功績

本名が消防本部に配属された当時は、類焼拡大する火災が多く、一方救急業務も増加の傾向にあり、消防力増強は急務であった。このような中、昭和４６年に救助隊、昭和４９年に救急隊が発足すると、これからの救急救助活動のあり方を真剣に検討し、消防隊との連携を考慮した部隊運用をいち早く実現させ消防救急体制の近代化を図った功績は消防内部および外部からも高く評価されている。

(2)　現場での功績

ア　昭和４９年１２月２３日５時過ぎに発生した店舗併用住宅火災に本署消防隊員として出動した。現場は市街地の中心に位置した商店街にあり、家屋が密集し幅員の狭い路地が入り組んだ場所であった。また、冬場の早朝で発見が遅れた上、出火建

物が古い木造であったため火の回りが早く店舗４棟を焼失した火災であった。本名は火災現場の東側防御のため、直ちに２線延長し放水を開始したが、火勢はさらに強まると同時に輻射熱の影響で加点に近づくことも困難な状況となってきた。本名はこのまま低い位置からの放水では東側の延焼阻止が不可能と判断し、隊長にアーケードの上からの放水を進言し、自ら試みた。これが功を奏し東側への延焼阻止が可能となり、余裕ができた他の１線は西側への転戦が可能となり、これを契機に一挙に鎮圧状態を見るに至った。これは本名の日頃の訓練成果と現場での冷静な判断によるものである。

イ　平成２年１月４日２３時２５分頃発生した病院内木造建物火災に消防隊として出動した。出火建物は、昭和１９年建築の倉庫で、現場到着時には、全焼状態で、東側の入院病棟への延焼の危険が迫っていた。現場において多くの消防隊が西側の消火作業にあたっていたが、この部分は最盛期を過ぎていると判断し、全体を東側に集中させ防御態勢を取る以外に延焼の阻止できないと判断し、移動させた。この本名の的確な状況分析の結果、東側への延焼を阻止した。これも本名の現場判断能力と日頃の火災防御技術の高さと評価された。

３　結　び

本名は奉職以来３９年半、消防職員の模範として常に先頭に立ち数々の業績と消防使命達成のため日夜尽力してきた。

一方、厳正な規律を重視し、部下の育成にも努力、上司はもとより同僚部下からも厚い信頼を得ている。

また、高層過密化する住宅等に対する予防行政の重要性を認識し、防火思想の普及啓発や防火査察にも注いでいる。

上記のとおり相違ありません。

平成２６年　６月３０日

秦野市長　古谷　義幸